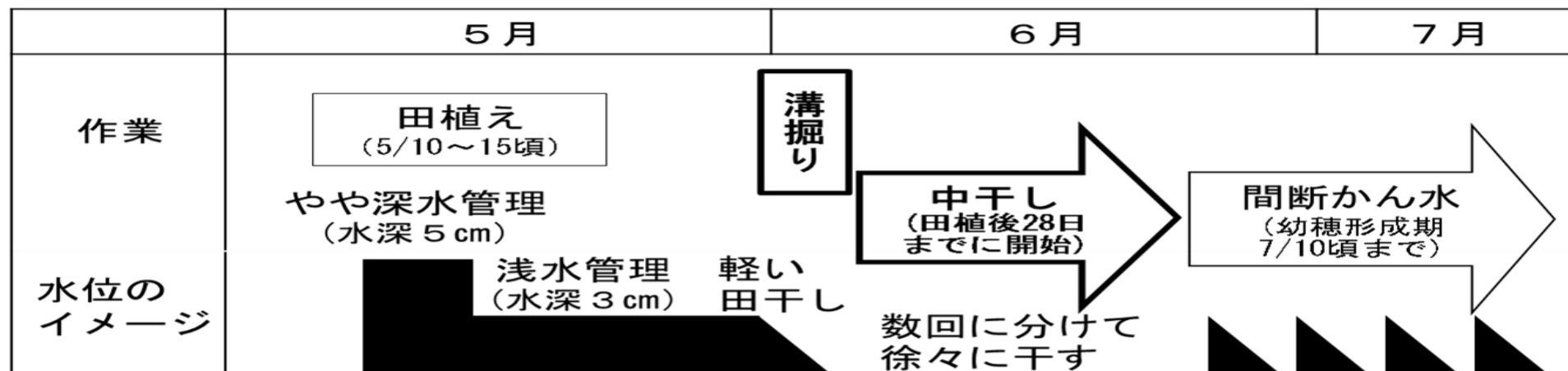


溝掘りは必ず行い、中干しは田植後 28 日頃までに開始しましょう！

〈水管理のイメージ(中生)〉

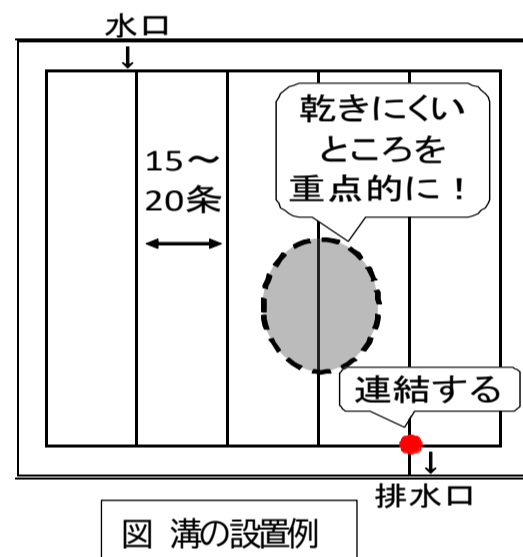


※昨年に秋耕を実施していないほ場や「ひこばえ」が大きくなったほ場(写真 2)では、中干し前の5月6半旬から6月1半旬にかけて軽めの田干しを実施しましょう。

1 溝掘り

～営農記録ノートP28 参照～

- ・今後の水管理を迅速に行い、生育管理や収穫作業をスムーズに行うため、**溝掘りは、田植後28日頃までに確実にいきましょう。**
- ・15～20条に1本を目安に溝を掘り、排水口に連結しましょう。
- ・乗用管理機の場合は2～3日軽く干した後、浅水にして溝を掘りましょう。



2 中干し

～営農記録ノートP28 参照～

- ・中干しは田植後 28 日頃までに開始しましょう。

〈中干しの程度〉

- ・田面に小さいひびが入る程度を目安とし、干し過ぎないように数回に分けて徐々に干しあげましょう。
- ・茎数が多くなりやすいほ場や乾きにくいほ場では、やや強めに干しましょう。(写真 1)

〈効果〉・過剰な分けつの発生を抑えます。

- ・ワキ(有毒ガスの発生)を抑え、根の伸長を促します。
- ・収穫時のほ場の硬さを確保します。



ほ場中央部で、くるぶしが軽く沈む程度まで干す。

写真1 中干しの目安



写真2 収穫後のひこばえ

3 中間追肥の施用(カリ入り土づくり資材を施用しなかった場合)

- ・中干し後に、「けい酸」や「加里」を補って、健全な稲体をつくりましょう。 ～営農記録ノートP28 参照～
 - ・中干し後の入水時に『エスアイ加里らくだ』(15kg/10a) または、『エスアイ加里カリ投げくん』を(200g×20個/10a) 施用しましょう。
- ※エスアイ加里カリ投げくんは5cm以上湛水してから施用し、5日程度湛水状態を保ちましょう。

(裏面へ続く)

4 カメムシが増殖しにくい環境づくり

- ・カメムシを増やさないために、餌となる雑草の穂が出る前に草刈りを実施しましょう。
※7月上旬までカメムシの発生量を抑えることが斑点米の発生防止に重要です。

直播(鉄コーティング)管理情報 (溝掘り・中干し)

1 溝掘りと中干し ～営農記録ノートP10参照～

- ・6月上旬頃に、溝掘りを行いましょう。
- ・中干し開始の目安は、茎数が㎡当たり300本(1m当たり100本程度)となった頃です。
- ・15～20条に1本を目安に溝を掘り、排水口に連結しましょう。
- ・直播は、移植に比べて分けつの発生が早いので、遅れず中干しを開始しましょう。

※移植に比べ強めの中干しが必要

<効果> 移植と同様に倒伏にも強くなる。
その他の効果は移植に準じます。

2 初期害虫の防除

- ・殺虫剤を使用していない直播栽培では、初期害虫の増加と被害が長期化の傾向です。食害がみられたら早めに防除しましょう。
- ・粒剤散布後4～5日間は、湛水状態を保ち、7日間は落水やかけ流しはしないようにしましょう。

対象害虫	防除の目安 (5月中旬～6月上旬)
イネミズゾウムシ	成虫数 3頭/10株
イネドロオイムシ	成虫数 0.5頭/10株

※使用農薬については、営農指導員にお問合せ下さい。

3 葉いもち予防剤の散布

～営農記録ノートP10参照～

- ・6月中旬に必ず予防粒剤を散布しましょう。

薬剤名	対象病害	使用量	注意
オリゼメート1キロ粒剤	いもち病 白葉枯病	1kg/10a	散布後4～5日間は湛水状態を保ち、 7日間は落水やかけ流しはない

○ご不明な点はJA高岡担当営農指導員又は高岡農林振興センター高岡班までお尋ねください。